

前向きな改善に 向けて

AP/FD YNU
NEWS Letter

2015年3月 Vol.3

平成26年(2014年)度春学期
授業アンケート実施報告

平成 26 年度春学期 授業アンケート実施報告

FD 推進部会 授業改善ワーキング・グループ

本特別号では、平成26年度春学期に行った「学生による授業アンケート」(以下、授業アンケート。)の集計結果についてご報告いたします。

FD推進部会が実施母体となり、平成17年度後期より全学部・教養教育科目統一で実施されてきた学生によるアンケートは、本年度で10年目となりました。導入からしばらくの間は「授業評価アンケート」と呼ばれてきましたが、平成23年度にFD推進部会が年間活動方針の一つとして「授業評価アンケートの抜本的改革」を掲げ、部会内の授業改善ワーキング・グループにおいて種々議論を重ねてきました。その結果、本学における「授業評価アンケート」の導入目的は、学生に授業を「評価」してもらうことではなかったこと、そして、アンケートは個々の教員の授

業改善に資するために行われていることが確認され、その名称を「授業評価アンケート」から「授業アンケート」に変更することが決まりました。したがって、平成24年度から名称は「学生による授業アンケート」となっています。

名称の変更の他、平成24年度にはこれまでのアンケートから大きく変わった点がありました。それは、質問の記載順の変更です。従前までは、4段階評価による受講態度⇒授業について⇒個別質問ときて、最後に自由記述欄が設定されていましたが、当年度からは自由記述欄を冒頭にもっていきしました。これは、それまで「自己点検票」に書かれていた教員からの意見(「平均点等の数値よりも自由記述の方が改善の参考になる」)や、FD推進部会の下部組織である教育改善学生グルー

プ(通称「学生FDグループ」)からの提案を踏まえた改善です。更にその翌年度(25年度)には、質問項目の文言の修正(現行のQ9、Q10)や項目の追加(現行のQ8)が行われています。真に実効性のある授業アンケートにすべく、今後も授業改善ワーキング・グループにおいて見直し作業を継続していく予定です。

なお、ここ数年は年度末の時期に「FDニュースレター特別号」として前年度の授業アンケート実施報告を刊行しておりました。しかし、それでは遅すぎるという反省に立ち、今回はデータが揃っている実施年度の春学期分について集計結果を掲載しております。平成26年度秋学期の実施報告につきましては、データが揃い次第、本AP/FD YNU NEWS Letterにて掲載いたします。

約85%の実施率の中、 授業アンケート結果がまとまる

平成26年度春学期授業アンケート

I. 実施概要

平成26年度春学期「学生による授業アンケート」は、平成26年7月7日～7月31日に実施された。対象科目数は1144科目、実施科目数は913科目であり、全学の実施率は79.8%となった。学部等区分別実施状況は表1の通り

表1 学部等区分別 アンケート実施状況

科目区分	対象科目	実施科目	実施率	回答者数
全科目	1144	913	79.8%	39706
教養教育科目	425	368	86.6%	16322
教育人間科学部専門科目	111	86	77.5%	3856
経済学部専門科目	113	60	53.1%	1759
経営学部専門科目	72	62	86.1%	3906
理工学部専門科目	378	306	81.0%	13532

なお、本アンケートでは、履修登録者20名以下の科目については実施を任意としている。そこで、当該科目を除くと、全学の実施率は85.2%となる(表2)。

表2 履修登録者が20名以下の科目を除いたアンケート実施状況

科目区分	対象科目	実施科目	実施率	回答者数
全科目	954	813	85.2%	38787
教養教育科目	398	354	88.9%	16193
教育人間科学部専門科目	106	84	79.2%	3839
経済学部専門科目	43	30	69.8%	1505
経営学部専門科目	72	62	86.1%	3906
理工学部専門科目	331	281	84.9%	13300

II. 集計結果

1. 【受講態度:出席】と【総合評価】の関係

授業アンケートのQ2では授業の出席頻度を尋ねているが、回答者の8割以上が「ほぼすべて出席した」と答えていたのは教養教育科目と理工学部専門科目であった(図1)。

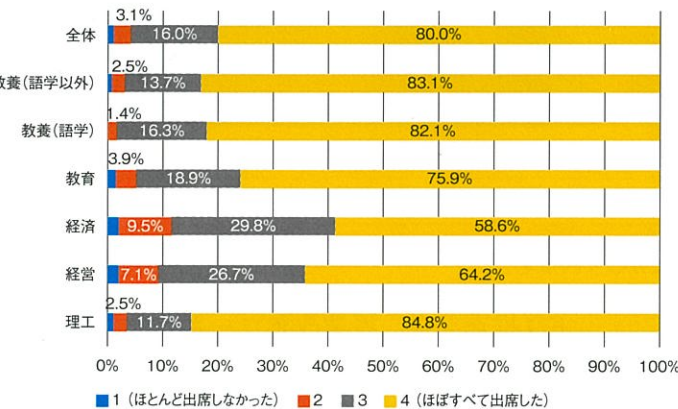


図1 全体および学部等区分別出席頻度

本アンケートでは、【総合評価】として理解度(Q9)、知識・能力の修得度(Q10)、満足度(Q11)の3点を尋ねているが、出席の度合いによって授業内容の理解や知識・能力の修得、満足度に違いがあるのだろうか。図2は、全回答者の出席頻度を高群(評定値4)、中群(評定値3)、低群(評定値1+2)に分けて授業の理解度とクロス集計した結果である。更に図3は、各出席頻度群の理解度の評定平均値を学部等区分に分けて比較した結果である。予想通り、出席頻度が高いほど、授業の理解度が高いことが分かる。

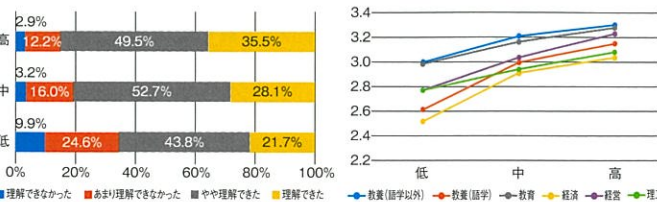


図2 出席頻度別授業の理解度(全体)

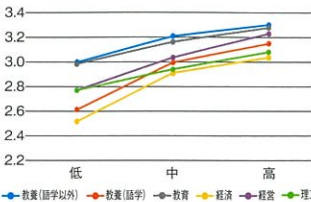


図3 学部等区分別理解度評定平均値

※「高」は評定値4、「中」は評定値3、「低」は評定値1+2をあらわす。以下、同様。

次に、図4は全回答者の出席頻度(高・中・小)と知識・能力の修得度をクロス集計した結果である。更に図5は、各出席頻度群の知識・能力修得度の評定平均値を学部等区分に分けて比較した結果である。授業の理解度と同様、出席頻度が高いほど、授業の到達目標で示されている知識・能力が身についたと感じる傾向にあることが分かる。

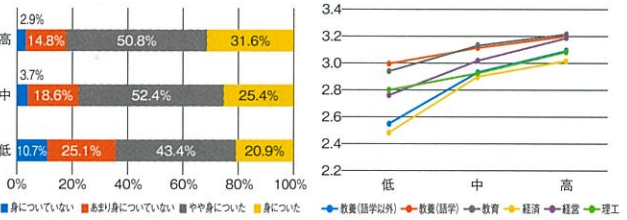


図4 出席頻度別知識・能力習得度(全体)

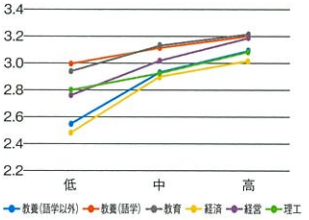


図5 学部等区分別知識・能力習得度評定平均値

最後に、図6は全回答者の出席頻度(高・中・小)と授業の満足度をクロス集計した結果である。更に図7は、各出席頻度群の満足度の評定平均値を学部等区分に分けて比較した結果である。授業満足度の場合には特に、出席頻度が高い群ほど受講した授業を高く評価する傾向があることが分かる。なお、評定平均値については、授業理解度と知識・能力習得度と比較すると全体的に高めの傾向があり、授業内容に対する自らの理解や知識・能力の修得度は十分でなくとも、「授業には満足した」と回答する傾向があることが窺える。

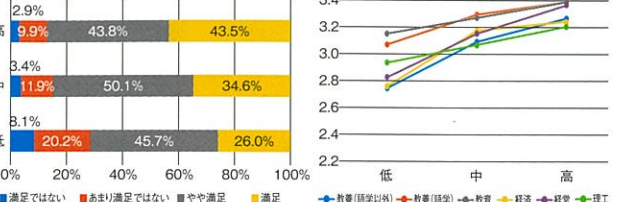


図6 出席頻度別授業の満足度(全体)

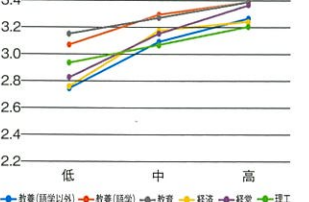


図7 学部等区分別満足度評定平均値

2.【受講態度:授業外学修時間】と【総合評価】の関係

授業アンケートのQ3では授業時間外の学修時間を尋ねている。単位制度の観点からすると、1科目あたり1単位である教養教育の語学科目については、回答者の6割以上が授業外学修時間を「1時間程度」以上と回答しており、学生・教員共に健闘している傾向が窺える。しかし、「単位制度の実質化」を考えると、全学的に授業外学修時間が低迷している現状は、引き続き改善が必要な重要課題といえる。なお、学部専門科目については、理工学部が他の学部専門科目に比べて授業外学修時間が多いことが窺える。これについては、理工学部の実験／演習科目におけるレポート作成が要因の一つとして考えられる(図8)。

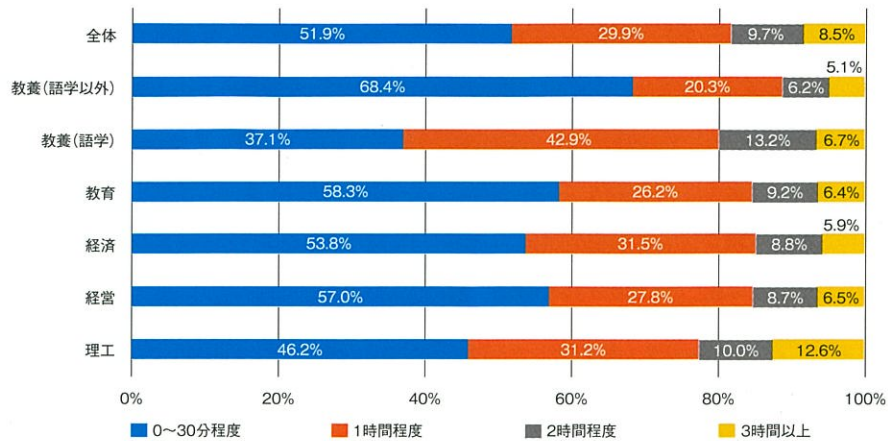


図8 全体および学部等区分別出席頻度

それでは、授業外学修時間の量と【総合評価】(理解度、知識・能力の修得度、満足度)の関係はどのようなになっているであろうか。図9～図14は、出席頻度の時と同様、授業外学修時間と各総合評価項目(理解度、知識・能力の修得度、満足度)をクロス集計した結果、および各授業外学修時間群の各総合評価における評定平

均値を学部等区分に分けて比較した結果である。授業外学修時間についても、基本的にその学修時間が多くなるほど授業の理解度や知識・能力の修得度、授業の満足度は高くなる傾向にある。ただし、「1時間程度」群と「2時間程度」群については、一部の学部専門科目を除き差はほとんど見られない。一方、「3時間以上」群は明ら

かに差が出ている。つまり、授業外学修時間が3時間を越えれば、学生の理解度や満足度が有為にあるようである。これは、授業設計を行う時に、授業外学修時間が3時間程度となるように考慮すれば、授業改善に繋がることを示しているといえるだろう。

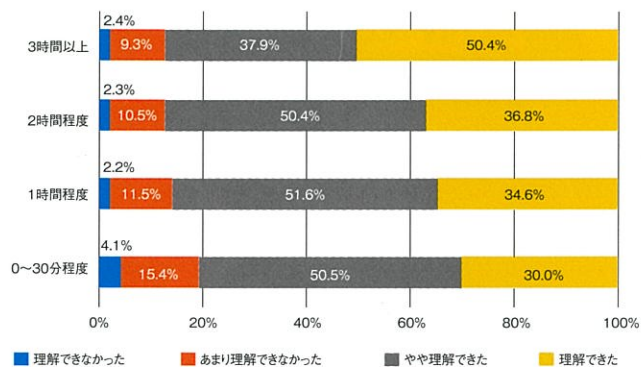


図9 授業外学修時間別授業の理解度(全体)

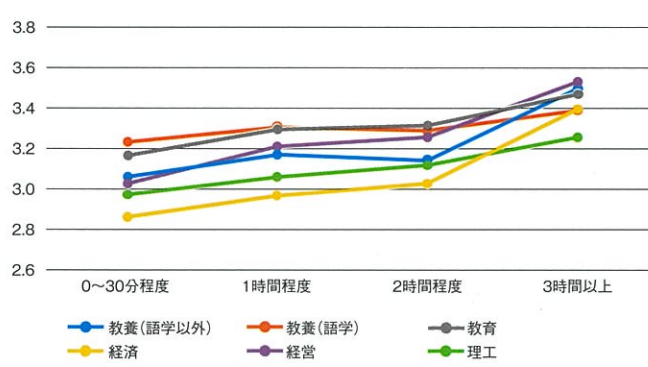


図10 学部等区分別理解度評定平均値

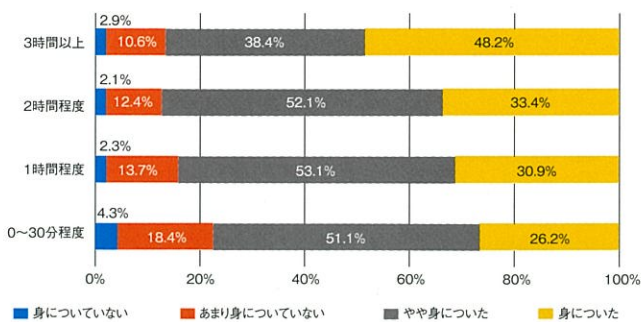


図11 授業外学修時間別授業の知識・能力習得度(全体)

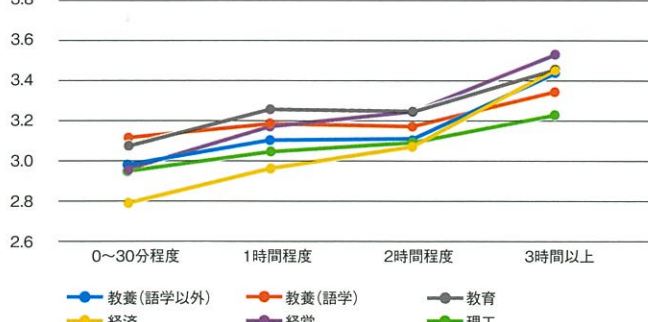


図12 学部等区分別知識・能力習得度評定平均値

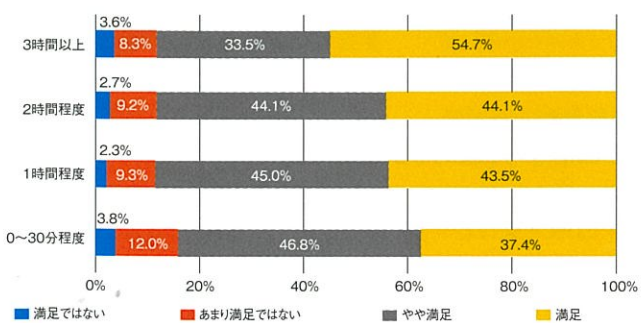


図13 授業外学修時間別授業の満足度(全体)

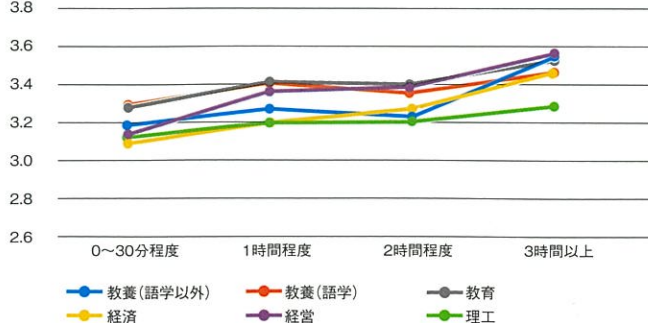


図14 学部等区分別満足度評定平均値

3.【授業の進め方および内容】に関する改善ポイント

授業アンケートの Q4～Q8 では、【授業の進め方および内容】について尋ねている。例年、アンケート実施報告では、各質問項目について学部等区分別に評価平均値を示しており、いずれの項目においてもその数値は高めの傾向（3.0 以上）であった。そこで今回は、改善すべきポイントをより明確化する意味で、回答選択肢の「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」を合算した割合を集計結果として示す（図 15、表 3）。なお、本誌冒頭で述べたように、平成 25 年度の授業アンケートで【授業の進め方および内容】に新たな質問項目（Q8. 教員は、授業で内容を丁寧に説明していましたか）を追加したこともあり、図 15 では参考までに前年度（25 年度）春学期データとの比較も行っている。

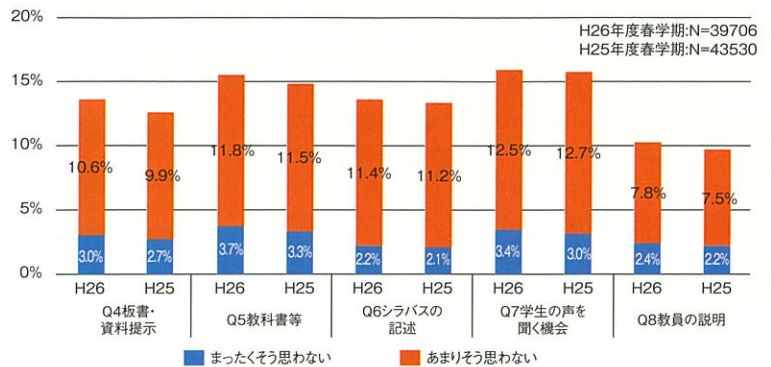


図15 全回答者の「あまりそう思わない」+「まったくそう思わない」の割合

表3 全体および学部等区分別「あまりそう思わない」+「まったくそう思わない」の割合

	Q4板書・資料提示	Q5教科書等	Q6シラバスの記述	Q7学生の声を聞く機会	Q8教員の説明
全体	13.6%	15.5%	13.6%	15.9%	10.2%
教養(語学以外)	14.1%	17.8%	16.4%	20.6%	11.2%
教養(語学)	12.0%	13.0%	13.6%	11.8%	7.7%
教育	12.0%	14.5%	13.9%	13.9%	8.2%
経済	14.1%	14.7%	13.9%	15.8%	10.1%
経営	15.9%	16.2%	14.2%	18.3%	10.0%
理工	14.3%	16.2%	12.0%	15.5%	11.9%

年度で比較すると、各質問項目の「あまりそう思わない」+「まったくそう思わない」の割合にはほとんど差がないことが窺える。一方、質問項目間で比較すると、割合の差が存在することが明らかに分かる（図 15）。「Q8. 教員は、授業で内容を丁寧に説明していましたか。」は全項目の中で最も割合が低く、多くの教員は授業で丁寧な説明ができていない傾向が窺える。一方、「Q7. 教員は質問やコメントなど、学生の声を聞く機会を設けましたか。」は全項目の中で割合が最も高く、特に語学以外の教養教育科目においてその傾向が強みられる（表 3）。中でも、大人数講義科目（101 名以上）においてその傾向が強い。ここ数年、アクティブ・ラーニングの重要性が高等教育の中で叫ばれているが、教員・学生間の双方向授業が本学でもより多く展開されるためにも、今後の FD 活動においてその方法や成果について情報の共有が求められる。

（資料）授業アンケート設問項目 平成 26 年度 学生による授業アンケート

大学教育総合センターFD推進部では、教育の現状を把握し、今後の授業の質向上に役立てるために、学生による授業アンケートを実施します。

科目名

【自由記述】

FA1 この授業の「良かった点」は何ですか。

FA2 この授業の「改善すべき点」は何ですか。

下記の設問について、鉛筆でマークして答えてください。Q1は5項目の中から、Q2～Q15は4段階評価で最も適切な番号 1 つを選んでください。

【受講態度について】

Q1 この授業を選んだ動機は何ですか。以下の中からいくつでも選んでください。

- シラバス（講義概要）を読んで面白そうだったから
- 他の人に薦められたから
- 自分の将来（キャリア）に役立つから
- 必修だから
- たまたま時間が空いていたから

Q2 この授業にはどの程度出席しましたか。

ほぼすべて出席した 4 3 2 1 ほとんど出席しなかった

Q3 この授業のために平均何時間くらい「時間外学修」をしましたか。一番近い数字を選んでください。

（注）「時間外学修」とは授業時間外の予習・復習・課題への従事等のことです。

（本来、単位数はこれを含めて決められています）

（4. 3 時間以上 3. 2 時間程度 2. 1 時間程度 1. 0～30 分程度 / 1 コマ（90 分）あたり）

以下 Q4 から Q15 には、下の 4 段階評価に従って

最も適切だと思う番号を下の選択肢欄から 1 つ選んでください。

（4. 非常にそう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. まったくそう思わない）

【授業の進め方および内容について】

Q4 板書や資料提示・デモンストレーション等は良かったですか。

4 3 2 1

Q5 授業の理解に役立つ教科書・参考資料・資料などが用意されましたか。

4 3 2 1

Q6 シラバスの記述は、分かりやすかったですか。

4 3 2 1

Q7 教員は質問やコメントなど、学生の声を聞く機会を設けましたか。

4 3 2 1

Q8 教員は、授業で内容を丁寧に説明していましたか。

4 3 2 1

【総合評価】

Q9 授業の内容は理解できたと思いますか。

4 3 2 1

Q10 授業の到達目標で示されていた知識や能力は身についたと思いますか。

4 3 2 1

Q11 総合的にこの授業に満足しましたか。

4 3 2 1

【個別質問】以下の 3 問は個別質問です。教員から指示があるときは回答してください。

Q12 4 3 2 1

Q13 4 3 2 1

Q14 4 3 2 1

Q15 4 3 2 1



YNU
AP/FD ニュースレター 2015年3月 3号(通号32号)

発行/2015年3月

編集/大学教育総合センター FD推進部

Mail/ynu-ap@ynu.ac.jp

HP/http://www.yap.ynu.ac.jp

※ご意見・ご感想がありましたら、上記宛までお寄せください。

大学教育再生加速プログラム

